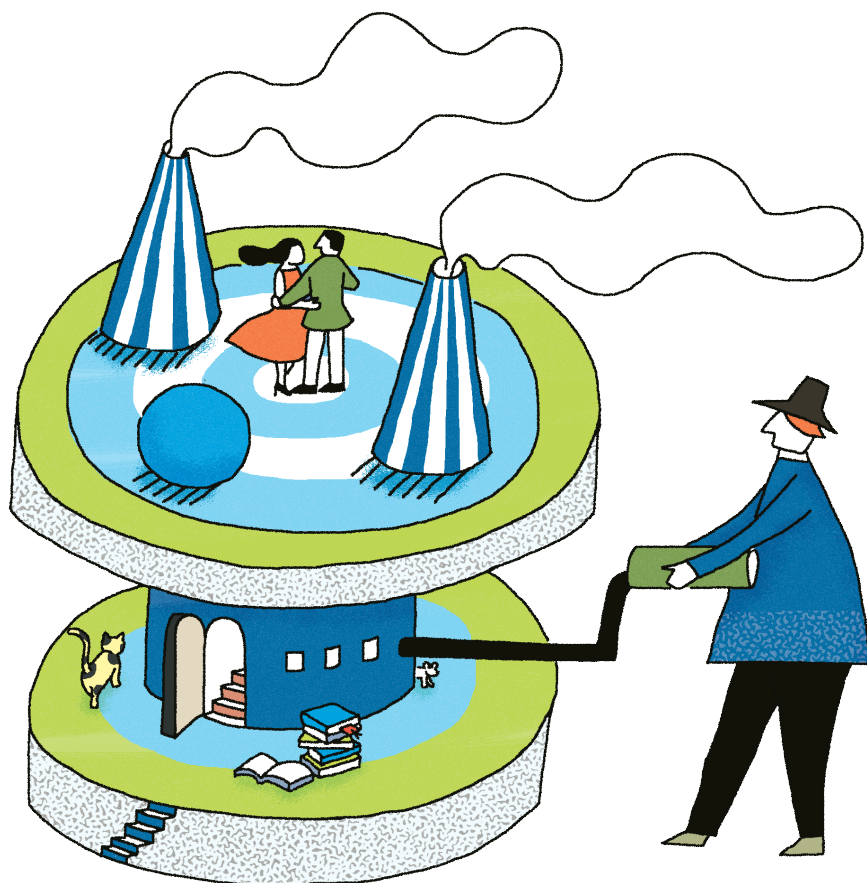


特*集

反訳

村上春樹



イラスト：なかむら葉子

編集：EE編集部・Dean Robson

pp.26-27出典：村上春樹(2016)『職業としての小説家』新潮社、村上春樹(2018)『村上さんのところ』新潮社、

『村上春樹さん、クラシックレコードを語る 上・下』毎日新聞デジタル(2023-01-14/15)、

『BRUTUS 特別編集 合本 村上春樹』(2022)マガジンハウス

※今特集は著作権の都合上、電子版での表示が制限されています。Kindle版では発売日の2023年11月6日から2024年11月5日までの1年間は同内容が表示されますが、以降は非表示になります。

iOS版では発売当初から非表示で販売しております。予めご了承ください。

反訳 村上春樹とは

村上春樹はデビュー作『風の歌を聴け』の冒頭を英語で執筆し、英文を日本語に「翻訳」し直すことで、独自の文体を獲得しました。

スコット・フィッツジェラルド、レイモンド・チャンドラーなど米作家からの影響も公言しています。

今特集では日常6テーマの描写を抜粋し、Penguin Random House Vintage 版の英文と並べました。

日本語→英語の反訳問題として、実用的な表現を学びましょう。

掲載作品

p.28

食べる



羊をめぐる冒険
1982年／講談社

一連の作品には読んでいるとお腹が空くような食事の描写がたびたび登場します。オムレツとサンドウィッチ、スパゲッティなどの洋食から、わかめと海老の酢の物といった和食まで、献立にも幅があります。舞台も

バー、レストラン、デニーズなどの外食チェーン、自宅などさまざまです。登場人物の多くは料理上手で、食事を通じて人間関係が深まっていきます。食にまつわる描写から会話表現を学んでみましょう。

p.30

聴く



国境の南、太陽の西
1992年／講談社

実在する音楽作品が数多く登場するのも村上作品の特徴です。レコード収集を真剣に追求してきたと語る著者は、約1万5000枚のレコードを保有。全体の7割がジャズ、2割がクラシックで、それぞれジャズは5000

円、クラシックは3000円以上の中古盤は購入しないというルールを決めているそうです。作中のセリフからは、長年にわたって情熱を傾けてきた音楽作品への愛着と芸術観がうかがえます。

p.32

読む



スプートニクの恋人
1999年／講談社

読書家であることはもちろん、レイモンド・カーヴァーなど国内で知名度の低かった作家の紹介、カーソン・マッカーラーズ『心は孤独な狩人』の新訳など、翻訳者としての功績も多大です。「本を読む人は幸せか?」と

いう読者からの質問には「たとえ不幸せになっても、人に嫌われたって、本を読まないよりは本を読む人生の方がずっと良いです。そんなの当たり前の話ではないですか」と答えています。

